

平成26年度フェロー認定（10名）



氏名	稲角 忠弘
認定時の所属	稲角技術士事務所
抱負	<p>工業は天然原料が出発点としてあり、原料の違いが生産経済性や生産時の環境負荷・エネルギー消費および製品価値・価格を大きく左右するが、日本は資源に乏しく多くは原料を海外に依存しているため、原料についての影響力の認識、原料評価力や利用感覚がどうしても至らなくなる傾向がみられる。資源小国ゆえに、資源国以上に視野を広く持ち、深く原料価値を見極める力を必要とするにも拘わらず、身近に資源がないのでそうならざるを得ない。逆に、日本は資源に乏しい故のハングリー精神をバネに、劣質資源の活用や国際競争力のある製品開発を得意とする風土や匠力を伝統的に培ってきた。私は業務を通し、欧米方式では活用しきれなかった粉鉄鉱石活用の焼結技術により国際競争力を飛躍させた経緯を当事者として体験でき、日本の伝統的潜在ポテンシャルが広い国際的視野をもって原料活用に取り組んだ時にいかに国際競争力が発揮されるかを学んできた。この業務体験は、原料選択の素材価格への大きさのみならず、生産における環境負荷・エネルギー消費を大きく左右する工学の基本課題であることを認識させてくれた。今後の日本の発展には、工業全般にわたり工学における原料についての基本認識を深める必要があり、私の業務体験を活かして、各工業分野の方々との横断的な交流ができ、工学のあり方の議論が深められればと願う。</p>
氏名	位野木 万里
認定時の所属	工学院大学
抱負	<p>1991年東芝入社以来二十年以上に渡り、ソフトウェア・システム構築の先端技術の研究、研究成果の開発現場での実践に取り組んでまいりました。また、情報処理学会では教育担当理事、ITダイバーシティ会フォーラム代表を経験するなど、教育や女性技術者の活動にも携わってまいりました。2014年4月からは、工学院大学情報学部コンピュータ科学科において、情報技術分野での学術研究の深耕ならびに、産業界で得られた研究成果と、実践で得た知識と経験を人材育成と教育活動に取り組んでまいります。</p> <p>情報技術は現在の社会にとりなくてはならない技術であり、未来においてその重要性はますます高まっていくことと存じます。自身の専門分野である情報技術、企業および学会活動などでの経験を活かして、工学分野を横断し、多様化する様々な技術者がいきいきと活躍できる環境づくりに尽力いたします。</p>

氏名	日下部 治
認定時の所属	茨城工業高等専門学校
抱負	
氏名	柵山 正樹
認定時の所属	三菱電機株式会社
抱負	各工学会の枠を超えたソリューションを社会に提供できるように、工学会間の連携を志向していきたい。
氏名	芝田 隼次
認定時の所属	関西大学
抱負	
氏名	白鳥 正樹
認定時の所属	横浜国立大学
抱負	
氏名	高原 正雄
認定時の所属	いすゞ自動車株式会社
抱負	<p>現在、可視化情報学会の会長として、可視化情報学の発展と社会への応用・普及に努めています。「可視化」の技術は、理工学分野における現象理解を容易にするところからスタートしましたが、現代社会は、ますます複雑化し、多くの分野の学術・技術が関連しあって課題を処理しなければならぬ時代になったこともあり、情報も含めたあらゆる分野で、現象解明や理論構築に無くてはならない技術となりつつあります。</p> <p>そのような時代において、日本工学会を取り巻く多くの学協会の中で、可視化情報学会は可視化という特異な技術を活用し、横断的な課題を解決する役割があると認識しています。私自身、可視化情報学会の今後の展開は、他分野とのコラボを中心とした活動に力点をおくことが重要であると考えています。そういった観点で、今後日本工学会が取り組む各種課題において、可視化情報学会の立場で貢献して行けると考えています。</p> <p>また、産業界における研究開発に永年従事し、また、各種の学協会活動で培った経験を生かして、産学官連携の各種課題に積極的に関わり貢献して行きたいと考えています。</p>
氏名	田辺 新一
認定時の所属	早稲田大学
抱負	建築環境分野を中心として、カーボンニュートラル、居住環境の快適性・健康性の維持・増進、レジリエンス性能の向上に貢献したい。(令和6年8月更新)
氏名	柘植 綾夫
認定時の所属	科学技術国際交流センター
抱負	
氏名	村上 篤道
認定時の所属	三菱電機株式会社
抱負	